



和敬塾メールマガジン 第1号(修正版)

2022年2月1日 和敬塾事務所

本日より、和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジンを発行することになりました。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

今晚放送のNHK BSP『アナザーストーリーズ』で和敬塾が紹介されるかも？

第1号のトップ記事は本日 21時～NHKBSPで放送される『アナザーストーリーズ 運命の分岐点』についての情報です。

第1号から差し迫った当日の話題で恐縮です。

『アナザーストーリーズ 運命の分岐点』は、NHK BS プレミアムのドキュメンタリー番組で、2015年(平成27年)4月1日にレギュラー放送を開始した人気番組です。

内容は、世界の歴史を揺るがした、様々な大きな出来事にスポットを当て、その出来事が起きた時代に、それにかかわった人達は何を考えていたのかを、貴重な映像や写真などの文献、関係者へのインタビューを使いながら、その出来事に隠されたもう一つの物語「アナザーストーリー」を、いくつかの視点から浮き彫りにする「マルチアングル・ドキュメンタリー」です。

そして、今晚放送されるのが、あの村上春樹氏の「ノルウェイの森」です

村上春樹氏は早稲田大学に入学当初の一時期に和敬塾・西寮(427号室)に住んでおり、その時期の体験が「ノルウェイの森」のモチーフになっていると言われています。

昨年11月に現在の西寮や昔の西寮の面影を残す旧南寮等の取材を受けましたが、どのように和敬塾が紹介されるかはわかりません。乞うご期待です！

配信日時は以下の通りです。

2月1日 夜9時～ NHK BSP アナザーストーリーズ「ノルウェイの森」

(再放送 2月10日 午前8時～NHK BSP)

<https://www.nhk.jp/p/anotherstories/ts/VWRZ1WWNYP/episode/te/Q6695QVGPN/>

JICA理事長の北岡伸一氏は西寮で村上春樹氏の1年先輩！

昨年の10月30日(日)に開催された塾友会ホームカミング大会において記念講演をされたJICA(国際協力機構)理事長の北岡伸一さんは西寮で村上春樹氏の1年先輩に当たります。

北岡さんはダイヤモンド社の有料会員サイトのダイヤモンド・オンラインの「塾友会と私」という特集記事の中で、村上春樹氏や「ノルウェイの森」に関しても触れていて、その記事も別添資料として配信致します。

オミクロン株による感染が一部の塾生にも及んでいます。

ただ、隔離用の施設を塾内に用意しており、寮内の感染拡大にはなっておりませんのでご安心下さい！

今回のオミクロン株による感染は止まることを知らず、若者を中心に爆発的な拡がりをみせていますが、知らぬ間に市中感染し、感染しても自覚症状が無く、他人に移してしまうケースが多いようです。

この感染拡大は一部の和敬塾生にも及び、37.5～38°C程度の発熱でPCR検査を受けたら陽性だったというケースが見られます。

1月1ヶ月の状況は、11名の塾生が陽性反応を示し、既に3名は隔離解除され自寮に戻り、現在8名が隔離生活をしています。その内4名は塾外療養施設に移り、残りの4名は塾内の隔離施設（閉鎖中の旧乾寮を活用）で生活しています。いずれの塾生も多少の発熱はあったものの、症状は軽いものでした。

また、少しでも発熱すればすぐにPCR検査を受ける体制にあり、陽性者との濃厚接触の疑いがある塾生も別の旧寮（旧南寮）に移り健康観察しながら生活してもらっています。

いずれの施設（旧寮）も入浴施設があり、3度の食事も職員が都度旧寮に届けており、生活に支障はありませんので、ご安心ください。

新年度の新入塾生を募集中です！

皆様のお知り合いで首都圏の大学に合格された方が居りましたら、和敬塾をご紹介下さい！

一昨年は、コロナ感染拡大の影響を受けて、ほとんどの大学で入学式も無く、対面授業が中止されてオンライン授業に変わったことで、4月からの入塾を延期するというケースが少なからず発生しました。

その選択をし、感染拡大が落ち着き、対面授業も再開された後期から入塾した新入塾生は、遅れて寮生活を開始し生活を始めたのですが、その時の感想を「早くから和敬塾に入つておけば良かった！」と異口同音に述べています。それは「目の前に話せる友人が沢山いた」からに他なりません。

共同生活だから感染しやすいという懸念もあっての遅れての入塾でしたが、寮生活だからこそ24時間体制での周囲からのしっかりと見守りがあり、適切で迅速な対応が取れているという安心・安全の側面があることを良く理解いただければと思います。一人暮らしでは決して望めないことです。

今回の新型コロナはどんなに注意して感染予防対策をしていても防ぎきれない全国規模の強い感染力を持っています。

そのような避けきれない状況下で大事なことは、感染した場合に如何に適切で迅速な措置をとれるかということです。

多くの塾生が切磋琢磨する仲間を待っています。どうぞ恐れず、将来に向けた選択をぜひして欲しいと願っています。

資料請求やお問い合わせは以下にお願い致します。

<https://www.wakei.org/admission/contact>

電話（03）3941-7446 担当：下深迫（しもふかさこ）



和敬塾メールマガジン 第2号

2022年3月2日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第2号をお送り致します。

なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

東京大学と明治大学で開催した住まい相談会（お部屋探し相談会）に参加しました！

大学受験たけなわですが、私立大学では大半の合格発表も終わり、そろそろ合格者は住まいを決める時期となりました。そこで、東京大学は受験日に合わせ、明治大学では合格発表の時期に合わせ、受験生やその保護者を対象にした住まい相談会（明治大学ではお部屋探し相談会）がそれぞれのキャンパスで開催され、和敬塾も相談ブースに担当者を派遣致しました。

最近は、受験生と一緒に上京される保護者の方も多く、特に東京大学駒場キャンパスで開催された相談会は感染対策から事前予約者のみを対象とする入場制限をしましたが、多くの保護者が入場されました。

以下は東京大学の住まい相談会に参加した担当者の弁です。

「和敬塾のブースに来られる保護者は共同生活形式を望んでおられることから、独り暮らしでは得られない安心と安全、食事や光熱費などの生活費のほとんどを含む塾費体系、戦後の復興時から66年間、共同生活を通して世のため人のためとなる人間形成を愚直に進めてきた和敬塾のことを説明しますと、『良い話を聞けた』という感想を多くいただきました。知識を活かすために必要な感性と能力を磨くことの重要性を感じていただいたようで、そうした時代が来た感がします。」

また、明治大学のお部屋探し相談会に参加した担当者は以下のようない感想を語っています。

「寮はコロナ感染が心配という保護者がいましたが、実際に和敬塾でも陽性者が出ていたが、現在使用していない2つの旧寮を活用し、1つは陽性者の隔離棟に、もう1つを濃厚接触者の隔離棟にし、各寮での感染拡大を避けることができた。また、朝昼晩の3食を職員が届けている旨を説明したら、『そこまでやってくれるなら安心ですね。アパートに一人住まいしていたらそうはいかないですからね』と言われていました。

また、明治大学の文科系の学生は1、2年次が和泉キャンパス（杉並区）で、3、4年次が駿河台キャンパス（千代田区）になるため、昔、八王子周辺のアパートに住んでいて、3年になる直前の3月に和敬塾に入塾した明大生がその夏休みに実家に帰った際に、ふつくらと太っていたことに驚いた母親が、「食生活が変わりお陰様で元気になりました」というお礼の手紙を塾に寄越したことを紹介しました。『確かに一人住まいだと食事もいい加減になりますよね！』と言われていました。」

なお、今後も3/10～13開催の東大住まい相談会、3/5,6、3/12,13開催の明大お部屋探し相談会にも参加いたします。

<2つの相談会で配布したチラシも添付させて戴きます。>



明治大学駿河台キャンパス会場の様子

塾友がプロデュースした番組が NHKBS で放送されます！

塾友（S51 北）で、現在、東京藝術大学特任教授を勤めていらっしゃる井上隆史氏より、以下のようなメールが入りましたのでご連絡致します。

井上氏の経歴は下記を参照願います。

2017/04 - 東京藝術大学 社会連携センター 特任教授
2006 - NHK 放送センター放送総局エグゼクティブプロデューサー
*2002 年～2007 年総合地球環境学研究所客員教授を兼務
---研究テーマ「シルクロードの環境と文明」
2000 - (株)NHK エンタープライズ 21 文化番組担当部長
1998 - 同 番組制作局チーフプロデューサー
1993 - 編成局スペシャル番組部チーフプロデューサー¹
1976- 早稲田大学第一法学部卒業後、NHK 入局



皆様

番組のお知らせです。

N H K B S P / 4 K チャネルで 3 月 5 日 (土) 19 : 30 ~ 21 : 00

『清朝秘宝 100 年の流転』が放映されます。

コロナ禍の中、中国のほか、米国・英国・スイスでも現地スタッフに頼んで取材を敢行しました。私の企画でしたので苦労して取材を手配しましたが、編集段階でオミクロン感染が広がったので、ポストプロダクションは制作会社に任せてオンライン参加とさせてもらいました。狭い編集室に若いスタッフと長時間詰めるのは基礎疾患持ちには怖いものがあります。スタッフが一人も感染せず無事番組が完成したのは本当にラッキーでした。

紫禁城や王族の屋敷から、20 世紀の初めに流出した清朝の秘宝が次々と祖国に帰っています。イギリスの地方都市で見つかった 1 ポンドの瓶が 1 億 8 千万円に、日本の静岡の骨董オークションに 100 万円で出品された壺が 10 億円で中国のコレクターの手に渡りました。

秘宝流出から 100 年の流転の物語を 4 K の鮮明な映像で紹介します。

番組の宣伝用のポストカードを添付致します。

NHK の番組ページ <https://www4.nhk.or.jp/P7390/>

お時間がありましたら是非ご覧下さい。

井上 隆史

【東京藝術大学特任教授】



新年度の新入塾生を募集中です！

皆様のお知り合いで首都圏の大学に合格された方が居りましたら、和敬塾をご紹介下さい！

一昨年は、コロナ感染拡大の影響を受けて、ほとんどの大学で入学式も無く、対面授業が中止されてオンライン授業に変わったことで、4月からの入塾を延期するというケースが少なからず発生しました。

その選択をし、感染拡大が落ち着き、対面授業も再開された後期から入塾した新入塾生は、遅れて寮生活を開始し生活を始めたのですが、その時の感想を「早くから和敬塾に入っておけば良かった！」と異口同音に述べています。それは「目の前に話せる友人が沢山いた」からに他なりません。

共同生活だから感染しやすいという懸念もあっての遅れての入塾でしたが、寮生活だからこそ 24 時間体制での周囲からのしっかりと見守りがあり、適切で迅速な対応が取れているという安心・安全の側面があることを良く理解いただければと思います。一人暮らしでは決して望めないことです。

今回の新型コロナはどんなに注意して感染予防対策をしていても防ぎきれない全国規模の強い感染力を持っています。

そのような避けきれない状況下で大事なことは、感染した場合に如何に適切で迅速な措置をとれるかということです。

多くの塾生が切磋琢磨する仲間を待っています。どうぞ恐れず、将来に向けた選択をぜひして欲しいと願っています。

資料請求やお問い合わせは以下にお願い致します。

<https://www.wakei.org/admission/contact>

電話 (03) 3941-7446 担当：下深迫（しもふかさこ）



和敬塾メールマガジン 第3号

2022年3月31日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第3号をお送り致します。

なお、発行は不定期となりますのでご了承下さい。

学校法人佐藤栄学園・栄東高校で前川理事長の講演会を開催。同校と包括連携協定も結ぶ。

埼玉県大宮市にある栄東高等学校の生徒に対し、3月17日に前川理事長が講演を行いました。テーマは「モノづくりから見た21世紀の世界」で、昨年の12月4日にも2年生を対象に行いましたが、今回は1年生を対象に行ったものです。この講演会は将来の進路について悩む高校生が多い為、そこに何らかのアドバイスをもらいたいとの高校側からの要請に基づいて行われたもので、塾生の代表も参加しました。

講演を始めるにあたって田中校長より、「自分が海外で仕事をしていた時代は日本が輝いていた時期で、その技術力を持つ国から来るので『ミス東芝、ミス東芝』と言われた。時代は変わり、今の日本は陰りが見えていると思っていた。しかし前川理事長から『日本は世界一だ。その技術、頭脳、先を見る目は素晴らしい。』と聞いた。今日の話を聞いて既成概念を変えて欲しい。どんどん質問をしてください。」との挨拶がありました。

前川理事長からは「20世紀の大量生産、大量消費を追求するグローバル社会は終わった」、「これからはそれぞれの地域のニーズを満たすローカルの時代」、「ローカル時代は共同体社会が根底にある」、「欧米は相手に勝つことだけに注力するが、日本は昨日の自分に勝とうとする」など生徒にとって初めて耳にする内容で刺激的であったようです。

講演は質疑応答形式を中心に行い、6, 7名の生徒から「ローカル社会は中小企業にとって有利だが、大企業は不利に思えるが」、「共同体社会に変わる時、国家の枠組みはどうなるか」等々多くの質問があり、予定した1時間を20分も延長するという盛り上がりでした。

講演終了後には、和敬塾の塾生（新南寮1年・篠原君）より和敬塾での生活の様子や共同生活の楽しさや学びについて話があり、生徒の皆さん興味深く聞き入っていたのが印象的でした。

同日、和敬塾と同校は連携協定を締結しました。この連携協定は広尾学園小石川中学校・高等学校、学校法人創志学園に続く3校目となります。今後は和敬塾の塾生と同校の生徒さんとの交流を進めて参ります。



田中校長による講演前のご挨拶



高校生を前に講演する前川理事長



生徒から熱心な質問が相次ぐ

3月31日、新入塾生を対象に入塾オリエンテーションが開催されました！

いよいよ、令和4年度の新入塾生が入ってきました。今年の入塾式は4月10日（日）に予定していましたが、それに先立ち3月31日に入塾オリエンテーションが大講堂で開催されました。

（なお、4/10の入塾式は感染対策の一環から保護者や来賓の方の入場はご遠慮いただいております。）

今年のオリエンテーションは3部に分かれ、主なプログラムは以下の通りでした。

<第1部：約70分>

- ① 歓迎挨拶および和敬塾の紹介（佐藤専務理事）
- ② 年間スケジュールと行事・教養講座の紹介（近藤東寮寮長）
- ③ 和敬の精神と塾歌について（塾事務所・佐々木）
- ④ 職員紹介（食堂G→東寮→西寮→新南寮→北寮→施設管理G→塾事務所）

<第2部：約60分>

消費者トラブル被害防止研修会

文京区消費生活センター主催：講師／洞澤美佳弁護士

<第3部：約30分>

和敬塾本館見学（案内役：塾事務所・丸山）

第1部では和敬塾の歴史や共同生活の基本精神を学ぶと共に、職員の紹介がありました。参考までに、和敬塾の紹介の際に使った資料の抜粋を次頁に添付します。

第2部では上京したばかりの大学生や若手社会人を対象にしたマルチ商法などの詐欺行為が多く発生しているため、文京区消費生活センターから派遣された洞澤美佳弁護士から具体例を紹介しながらその防止策についての研修会があり、新入塾生も興味深く聞いていました。

第3部では和敬塾本館（旧細川侯爵邸）の見学会を実施しました。この本館は収益事業ができる文化財として活用されており、多くの映画（例：コンフィデンスマント、劇場版HERO）やテレビドラマ（例：日曜劇場・危険なビーナス、日本沈没）の撮影に使われています。また、塾生対象のマナー講習等でも利用していますが、普段は中々入る機会がないので、新入塾生も興味深々で説明を聞いていました。



<第1部> 和敬塾の紹介



職員紹介



<第2部> 消費者トラブル被害防止研修



講習を熱心に聞く新入塾生



<第3部>



和敬塾本館見学

<和敬塾の紹介資料・抜粋>

創立者・前川喜作について



1895年(明治28年) 奈良県生まれ
1920年(大正9年) 早稲田大学理工学部卒業
1924年(大正13年) 株式会社前川製作所設立
1948年(昭和23年) 早稲田大学評議員
1955年(昭和30年) 財団法人和敬塾創設
1986年(昭和61年) 7月19日逝去

<時代を担う若者の教育に捧げた創立者>
早稲田大学理工学部を卒業後、民間企業を経て、
産業用冷凍機メーカーの「前川製作所」を創業。
昭和30年に私財を投じて「財団法人和敬塾」を創設。
戦後の荒廃した日本を目の当たりにし、人間として成長出来る「教育の場」を作りたいという壮大な理想を掲げて取り組んだ。

最近の入塾式、予餞会(卒塾式)の講演者

H25年入塾式	鎌田 薫	早稲田大学総長
H25年予餞会	河相 周夫	元外務事務次官・外務省顧問
H26年入塾式	濱田 純一	東京大学総長
H26年予餞会	呉 善花	拓殖大学教授
H27年入塾式	東原 敏昭	梯日立製作所・執行役社長
H27年予餞会	月尾 嘉男	東京大学名誉教授
H28年入塾式	木村 清孝	東京大学名誉教授(塾友)
H28年予餞会	林 信秀	㈱みずほ銀行 取締役頭取
H29年入塾式	荻田 敏宏	㈱ホテルオークラ 代表取締役社長
H29年予餞会	朝田 照男	丸紅㈱取締役会長
H30年入塾式	大西 賢	日本航空㈱取締役
H30年予餞会	柳川 範之	東京大学大学院教授
H31年入塾式	大野 弘幸	東京農工大学学長
R 1年予餞会	松山 大耕	妙心寺退蔵院副住職
R 3年入塾式	吉村 剛史	ジャーナリスト(塾友)
R 3年予餞会	上野 誠	國學院大學教授(塾友)

塾友会(OB会)について

様々な分野で活躍している5,000名を超えるOB(塾友)は和敬塾の大きな財産の一つです。例えば…



国際協力機構(JICA)理事長
北岡伸一 氏



『週刊文春』『文藝春秋』の両誌で編集長を務めた 木俣正剛 氏
(岐阜女子大学副学長)



元科学技術省次官、
元駐チエコ大使 石田寛人 氏
(公立小松大学理事長)



読売巨人軍球団社長
今村 司 氏
(前任の日テレ時代はダッシュ村等の腕プロデューサー)

塾友による就活サポートも盛んです！

塾友会では、現役塾生を対象に就職活動のサポートを実施しています。
就活に関する全般的な相談、ES作成、面談対策等、現役生のキャリア形成をお手伝いしています。
詳細はお手元の資料を参照してください。

混沌・激変の21世紀に求められる人材像
どんな環境変化があってもそれに対応できる人材が求められている！

共同生活を通じた人間形成

体験と実践を通じた共同生活

国内外から集まつた多様な塾生との交流・対話
幅広い年代層の塾友との交流、様々なアドバイス

個を超える共同体の知恵
対話力、コミュニケーション力の構築
日本の柔軟な思考・発想

他人を知り、社会を知り、己を知り、己の思いを伝え、行動する！

↓
21世紀の和敬塾の方向性…環境適応力を持った人材の育成

皆様のお知り合いで首都圏の大学を目指す受験生がいらっしゃいましたら、和敬塾をご紹介下さい！

一昨年は、コロナ感染拡大の影響を受けて、ほとんどの大学で入学式も無く、対面授業が中止されてオンライン授業に変わったことで、4月からの入塾を延期するというケースが少なからず発生しました。

その選択をし、感染拡大が落ち着き、対面授業も再開された後期から入塾した新入塾生は、遅れて寮生活を開始し生活を始めたのですが、その時の感想を「早くから和敬塾に入っておけば良かった！」と異口同音に述べています。それは「目の前に話せる友人が沢山いた」からに他なりません。

共同生活だから感染しやすいという懸念もあって遅れての入塾でしたが、寮生活だからこそ24時間体制での周囲からのしっかりとした見守りがあり、適切で迅速な対応が取れているという安心・安全の側面があることを良く理解いただければと思います。一人暮らしでは決して望めないことです。

今回の新型コロナはどんなに注意して感染予防対策をしていても防ぎきれない全国規模の強い感染力を持っています。そのような避けきれない状況下で大事なことは、感染した場合に如何に適切で迅速な措置をとれるかということです。

多くの塾生が切磋琢磨する仲間を待っています。どうぞ恐れず、将来に向けた選択をぜひして欲しいと願っています。

資料請求やお問い合わせは以下にお願い致します。

<https://www.wakei.org/admission/contact>

電話 (03) 3941-7446 担当：下深迫（しもふかさこ）



和敬塾メールマガジン 第4号

2022年4月15日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第4号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますのでご了承下さい。

令和4年度入塾式が開催されました！

4月10日（日）、素晴らしい天気のもと、令和4年度の和敬塾入塾式が学生ホール内大講堂で開催されました。本年度の新入塾生は日本人52名、留学生12名（4/10時点入寮者）で、今回は感染対策を考慮した上で在塾生も参加しました。

なお、感染対策の一環から保護者や来賓の方の入場はご遠慮いただきましたので、ここで式典の概要をお伝え致します。

入塾式の式典内容は以下の通りでした。

<大講堂における式典内容>

- ① 理事長歓迎挨拶 前川正雄 理事長
- ② 来賓挨拶 永井達也 塾友会長
- ③ 塾生代表挨拶 全塾委員長 北寮3年 中村君
- ④ 新入塾生代表挨拶 新南寮1年 井出君
- ⑤ 記念講演 駐日ジョージア特命全権大使
ティムラズ・レジャバ氏



大講堂で開催された入塾式



歓迎の挨拶をする前川理事長



永井塾友会長



新南寮1年 井出君



駐日ジョージア大使 ティムラズ・レジャバ氏
(左は講演時、右は質疑応答時)

出を始め、最年少の駐日大使として活躍する日々の出来事や昨今のウクライナ問題にも言及するなど、多岐にわたる示唆に富んだ講演を戴きました。

講演は「自己紹介させていただきます」という一見ユニークな演題でしたが、これはレジャバ大使が経験した挨拶を大事にする和敬塾の思い出に基づいたものでした。また、大使は日本の生活が長く、日本語も堪能ですが、「和敬塾で生活することで初めて日本の文化や生活様式を深く知ることができました」との話に続き、「日本にも独立自尊という言葉があるように、自らのアイデンティティを守ることは極めて重要である」という趣旨の話がありました。

講演後の質疑応答では6人の塾生から質問があり、丁寧且つ気さくに答えて戴きました。大使からは「質問をする方は自分の名前と好きなことを最初に紹介してから質問してください」との注文があり、いつもは我先に手を挙げる塾生も、一本取られた感があり、和気あいあいの質疑応答で記念講演の幕を閉じました。

大講堂での式典終了後は和敬塾本館（旧細川侯爵邸）中庭で記念撮影がありました。東寮・西寮・新南寮・北寮の順番に撮影が行われましたが、終了後も塾生からの要請で個々の記念撮影に引っ張りだこのレジャバ大使の姿が印象的でした。

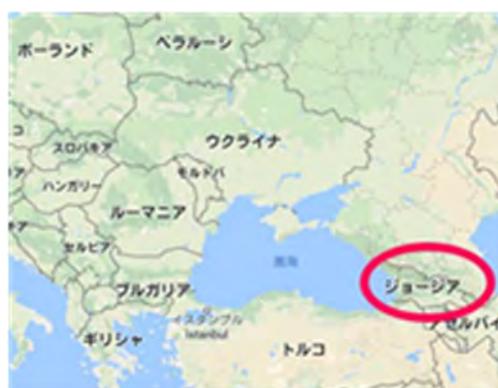
参考までにレジャバ大使のプロフィールを紹介致します。



本館中庭での記念撮影



<ティムラズ レジャバ大使 プロフィール>



1988年4月	ジョージアの首都トビリシ出身
1992年に日本へ移住して以来、大学卒業までジョージア、日本、アメリカ、カナダで教育を受ける。	
2011年9月	早稲田大学 国際教養学部 卒業
2012年4月 -2015年4月	キッコーマン株式会社 海外営業マーケティング・首都圏 営業担当
2015年9月 -2018年9月	ジョージア・日本間の経済活動に従事
2018年10月 -2019年7月	ジョージア外務省 参事官 入省
2019年8月 -2021年11月	在日ジョージア大使館臨時代理大使
2021年11月	駐日ジョージア特命全権大使

和敬塾を紹介した新しいパンフレット(別添)ができました。ご入用の方は、ご連絡下さい。

資料請求やお問い合わせは以下にお願い致します。

<https://www.wakei.org/admission/contact>

電話 (03) 3941-7446 担当：下深迫 (しもふかさこ)



和敬塾メールマガジン 第5号

2022年5月12日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第5号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

広尾学園小石川中学校・高等学校の新入生研修会が和敬塾で開催されました。

昨年3月に和敬塾と包括連携協定を結んだ広尾学園小石川中学校・高等学校の連携事業の一環として、昨年度に続き、今年度も同校の新入生研修会が和敬塾大講堂で開催されました。

この協定は、相互に有する人的資源、知的財産及び物的資源の活用を図り、教育研究、社会貢献、キャリア教育等の分野において協力し、グローバル社会に貢献する人材育成に寄与することを目的としており、その中の具体的な取組として、同校の中高生が和敬塾の塾生と交流することで、具体的な夢に向かって突き進んでいる現役大学生からたくさんの刺激を受けることを意図しています。

今回の新入生研修会は中学1年生が4月20日（水）に、高校1年生が同22日（金）に開催し、一人一人の自己紹介やクラス別研究発表等の後、和敬塾生の代表が受験生時代の想い出や将来の夢を語る場面もあり、参加した中高生は興味津々に耳を傾けていました。

<4/20（水）中学校の研修会>



挨拶する前川副理事長



クラス別研究発表



2021年3月23日の調印式の写真



塾生代表の挨拶

<4/22（金）高等学校の研修会>



塾生代表の挨拶



クラス別研究発表



本館中庭での記念撮影

栄東中学校・高等学校生徒と和敬塾生との交流会が開催されました。

和敬塾メールマガジン第3号で栄東中学校・高等学校との提携について紹介しましたが、その具体的な取組として、5月7日（土）に同校において中学生・高校生と和敬塾生との交流会が開催されました。

今回の交流会に参加したのは和敬塾北寮のA君で、まず高校1年生のクラスでのHR授業に参加し、「多様性について」の話を行い、その後、中学3年～高校2年の聴講希望者30名に対し、A君の自己紹介と大学での研究テーマ、将来の夢などを話しました。

A君は子供の頃から宇宙飛行士になる夢を持っており、秋にはアメリカの大学に留学も予定しているなど、夢の実現に向けてまっしぐらに取り組んでおり、そうした正に「夢のある話」に生徒たちも目を輝かせて聞いており、数多くの質問がありました。

その代表的な質疑応答内容を以下に紹介します。

Q1) 大学でどんなことを学んでいますか？

A1) 東大で宇宙工学の勉強をしています。宇宙工学と言っても分野が広い。自分はロケットの形状について研究しています。どんな形だと燃料効率的が良いとか、抵抗が少ないとかをコンピューターを使ってシミュレーションしています。流体力学という勉強や計算力学という勉強をしています。

Q2) なぜ宇宙飛行士を目指すようになったのですか？

A2) 小学校の頃からTVなどで宇宙に興味を持って、宇宙飛行士になろうと思った。周りからは宇宙飛行士になるなんて無理だと言われた。それでも諦めなかった。無理だという人は挑戦しなかった人だ。飛行機を飛ばすなんて無理だと言った人は飛行機を飛ばしたことがない。自分は宇宙飛行士になるためにUCLAでPh.D（注：Doctor of Philosophyの略称で、日本でいう博士号に相当）を目指しています。滞在中の生活費や授業料は全て免除で、担当教授が賄ってくれる。宇宙航空関係の大企業がスポンサーになっているからだ。日本初の民間企業が開発した宇宙ロケットはインターステラテクノロジズという会社が作った。無理だという人も大勢いたと思うが開発を諦めなかった。



30名の生徒の前で将来の夢について語るA君



交流会後も熱心に
質問する生徒

資料請求やお問い合わせは以下にお願い致します。

<https://www.wakei.org/admission/contact>

電話（03）3941-7446 担当：下深迫（しもふかさこ）



和敬塾メールマガジン 第6号

2022年5月15日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第6号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

第67回創立記念塾祭が盛大に開催されました。

5月15日は和敬塾の創立記念日です。この日、創立記念塾祭が大講堂で盛大に開催されました。

今回は午前中の式典だけで、例年恒例の3年生劇はコロナ禍の為に残念ながら延期となりました。

式典は、①理事長挨拶、②塾友会会长挨拶、③在塾生代表挨拶、④記念講演の順で行われました。

まず、前川正雄理事長からは、文京区と和敬塾が包括連携協定を結び様々な連携事業を予定していることに触れられ、塾生に対し和敬塾の内と外での連携において人間形成に励んでもらいたいとの話がありました。

次に登壇した塾友会の永井達也会長からは、自身の塾生時代の思い出を紹介。特に、今では考えられないような女子大生との合同ハイキングやダンスパーティーがあったことなどを紹介すると共に、今回は延期になってしまった3年生劇は永井会長の在籍当時は本格的な内容で、劇団四季の方が見学に来たり、この演出に関わった塾生がプロの演出家になったことにも言及。在塾生にも良い刺激になったものと思います。

次のプログラムは塾祭ならでは企画として、4寮の留学生代表に和敬塾での共同生活の体験談を話してもらいました。最初に登壇したのはこの3月末に入寮したばかりの東寮のボビー・チョン君（香港出身）で、戸惑いながらも後から入って来た留学生の面倒を見ているという頼もしい話を流暢な日本語で紹介。



前川理事長

永井会長



登壇した4寮代表の留学生

次に立った西寮のパヴェル・ブラク君（ロシア出身）は早稲田大学の短期プログラムで和敬塾に入ったがその時の印象が良かったことから、一旦帰国後、上智大学大学院に入学した際に再入塾した経緯を紹介。塾生同士の深い絆や美味しい食事、皆で入るお風呂の楽しさなど、和敬塾での共同生活を満喫している様子を紹介してくれました。

新南寮のホウ・シン君（中国出身）の話には会場の塾生もビックリ！彼は今、早稲田大学の博士課程に席を置いていますが、大学1年の時に北寮に入寮以来、修士課程に進んだ際に異寮に移り、異寮が新南寮となってからも在籍し、今年で在籍10年目とのこと。これまでの最長不倒だった國學院大學教授の上野誠さん（S59北）の記録を破る勢いです。学部生時代からの思い出を紹介した後、「“共同生活を通した人間形成”という和敬塾の理念に感謝しています」との如何にも博士らしいまとめ方をして戴きました。

留学生の最後は北寮のヤン・ゼハオ君（中国出身）。彼は3日前に留学先のアメリカから帰国したばかりでしたが、6分にわたる熱弁を披露。北寮に入寮以来お世話になった先輩寮生はもちろんのこと、寮職員や塾職員の数多くの名前を挙げて感謝の意を表していました。「唯一残念なのは彼女ができなかったこと」という笑いを誘うことも忘れない素晴らしいトークでした。



東寮：ボビー・チョン君 西寮：パヴェル・ブラク君 新南寮：ホウ・シン君 北寮：ヤン・ゼハオ君

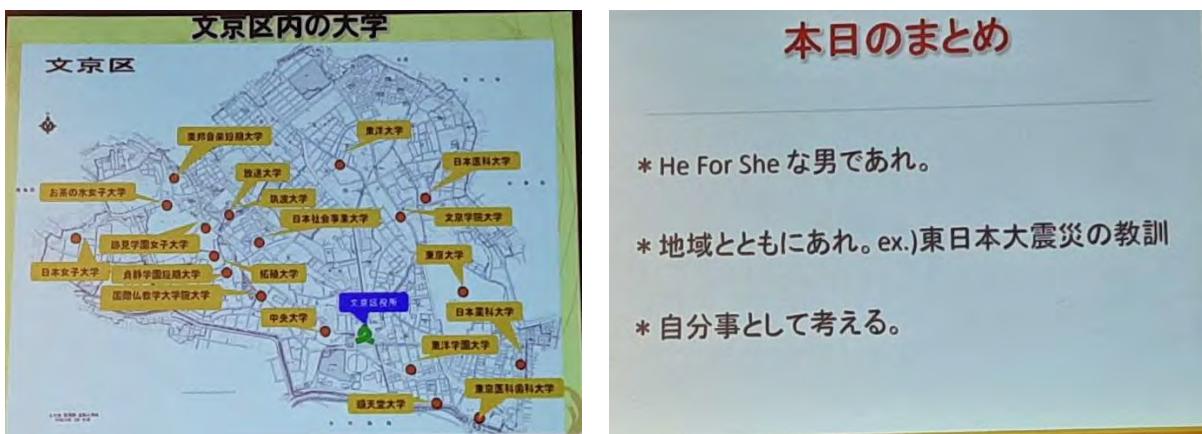
前川正副理事長の講師紹介の後、登壇した成澤廣修・文京区長からは、「和敬塾と文京区の連携に期待すること」というテーマでご講演を戴きました。



文京区と和敬塾は2020年9月に包括連携協定を結びましたが、その狙いを紹介すると共に、文京区の現況や様々な取組を紹介。

大要以下のような話がありました。

- ・和敬塾は将来の日本や世界を支えるトップエリートが集まる場と考える。
- ・だからこそ、知ってもらいたいこと、訴えたいことがある。
- ・文京区は19もの大学を抱える文字通りの文教都市で、人口が増えている数少ない自治体。
- ・しかし、他の自治体同様、少子化が最大の問題であり、それに男子が向き合うことが重要。
- ・男子寮だからこそ知ってもらいたい少子化対策（男性が理解することが少子化対策に繋がる。）
- ・女性のための男性であれ！（女性を助ける男性であれ！）
- ・（災害時などの際に）助け合いの主人公になってもらいたい。
- ・少子化対策や防災活動等も他人事ではなく、自分事として捉えてほしい。



様々なスライドを通し、塾生への期待を寄せたスピーチを戴きました。

以上

資料請求やお問い合わせは以下にお願い致します。

<https://www.wakei.org/admission/contact>

電話 (03) 3941-7446 担当：下深迫（しもふかさこ）



和敬塾メールマガジン 第7号



2022年5月27日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第7号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

IPU 環太平洋大学の学生と塾生との交流会が和敬塾本館で開催されました。

昨年8月に包括連携協定を調印した学校法人創志学園グループのIPU 環太平洋大学の学生代表が5月26日（金）に来塾し、塾生との交流会を行いました。

環太平洋大学は岡山県にキャンパスがある 2007 年に創立された比較的新しい大学ですが、教員や公務員を多数輩出すること有名で、今回も霞が関の中央官庁での短期研修後に、和敬塾に1泊しながら、塾生と交流の場を持ったものです。

一行（男子学生5名、女子学生2名、教員2名の合計9名）は18時過ぎに到着しましたが、夕食後19時30分から塾生との懇談会を本館応接室にて開催しました。

塾生参加者は、留学生1名を含む5名で、今回の環太平洋大の研修目的が地方創生という事で、懇談会ではその辺りを踏まえた内容の他、就活などについてフリートークで懇談するという自由な雰囲気での交流の場となりました。

初対面とはいえ、やはり若者同士なのですぐに打ち解け合い、和気あいあいの内に時間がアップという間に2時間を超え、最後に前川副理事長の締めの挨拶で解散となりました。

今朝は7時から朝食をとり、その後ミーティング、素晴らしい思い出と共に、7時40分に和敬塾を出発されました。

CAMPUS MAP



IPU 環太平洋大学第1キャンパス



参加した5名の塾生



和気あいあいの懇談会



12名の学生の記念撮影



和敬塾メールマガジン 第8号



2022年6月6日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第8をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

6月4日（土）に総合防災訓練が開催されました。

ここ数年は温暖化の影響もあり、各地で線状降水帯による豪雨災害が頻繁に起きています。また、首都直下型地震も今後30年内に70%の確率で起きると予想されています。

「災害は忘れた頃にやってくる」という有名な言葉は夏目漱石の一番弟子とも言われた物理学者で防災学者の寺田寅彦が残したもので、「起きてしまった災害を忘れることなく日々の備えをしよう」という警句です。また、「備えあれば憂いなし」という格言もあり、先週の6月4日（土）に塾内の施設を利用して、総合防災訓練が開催されました。

今回は小石川消防署老松出張所の協力を得て、消火器による初期消火訓練、並びにAEDを使った心肺蘇生訓練を、また文京区防災課の協力を得て、起震車による地震体験、煙体験ハウスを使っての火災避難訓練を実施しました。

今回の訓練の中で特徴的だったのは、新型コロナ感染を受け、心肺蘇生訓練での呼吸確認や人工呼吸の際に、被害者の口元に救命者が口を近づけないことや、被害者の口元にマスク代わりの布を置いてから救命処置を行うということでした。

また、煙体験ハウスでは、充满した煙で全く前が見えなくなる体験をした寮生から驚きの声が上がっていました。

訓練終了後に小石川消防署老松出張所の遠藤中隊長から講評があり、最近富みに増えている豪雨災害の実情が紹介され、自然災害に備える心構えが強調されました。また、最後に挨拶した佐藤専務理事からは部屋の中にあるコンセントと家電等の電源プラグの間に溜まった埃が原因で火災に至るトラッキング現象の怖さが紹介され、各自の部屋の整理整頓を要望。また、自然災害時には自らや寮生の命を守るのはもちろんのこと、近隣住民にお年寄りや外国人の方が多い為、寮生の若い力や語学力が期待されていることが紹介されました。

訓練終了後、文京区防災課の方から区で保管していた備蓄食料のアルファ米（わかめご飯）と災害救助用クラッカーが参加者全員に配られ、思わぬプレゼントに寮生も職員も顔をほころばせながら各寮に戻りました。



消火器による初期消火訓練



AEDを使った心肺蘇生訓練



起震車による地震体験



煙体験ハウスによる避難訓練



和敬塾メールマガジン 第9号



2022年6月10日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第9号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

文京区、大塚警察署と「災害時における相互協力に関する覚書」を締結しました。

6月9日(木)、文京区、大塚警察署及び和敬塾との間で「災害時における相互協力に関する覚書」を締結しました。

今回の覚書は、地震や台風、ゲリラ豪雨などの災害時に、区民等を受け入れる二次的な避難所又は、一時的な垂直方向に避難する滞在場所（神田川氾濫時の垂直避難場所）を提供する内容になっています。

文京区役所で行われた締結式には成澤文京区長、宮崎大塚警察署長、前川和敬塾理事長の3名が参加し、大要以下のようない話がありました。

成澤区長

和敬塾とは令和2年9月に包括連携協定を結び様々な連携事業をしてきたが、今回の防災協定を結ぶ前の昨年8月末に区内の一部で都市ガスが1週間ほど供給停止になったことがあったが、その時にも住民へのシャワー利用で協力戴いたことがあり、大変感謝している。先週の土曜日には多数の寮生が参加しての防災訓練を実施したことも聞いており、心強く思っている。今後とも災害時の相互協力に力を貸してもらいたい。

<前川理事長>

地域の為に貢献できることは何でも協力したい。今の社会の問題は青少年の育成と高齢者問題だ。和敬塾は日本型共同体の体験を通して若者の育成に取り組んでいるが、こうした若者が地域に貢献することも使命だと思っている。

〈宮崎大塚警察署長〉

警察は安全な街づくりに取り組んでいるが、自然災害は防ぐことができず、住民の避難誘導が警察の主な仕事になるが、今回、目白台にある和敬塾が**垂直非難場所**として協力いただけることになり、大変感謝している。

注：垂直非難場所：集中豪雨等で川が氾濫した場合、洪水で付近一帯の避難場所が確保できない状態になった場合、高い建物や高所が垂直非難場所になります。和敬塾の場合、神田川の氾濫の際の垂直非難場所となります。（右の文京区水害ハザードマップを参照）



覚書へのサイン



前川理事長・成澤区長・宮崎署長



文京区水害ハザードマップ(抜粋)



和敬塾メールマガジン第10号



2022年6月29日 和敬塾事務所

新理事長に前川正氏、塾長に前川正雄氏、新たに3名の理事が誕生！

6月10日（金）開催の理事会、6月27日（月）開催の評議員会にて、和敬塾役員体制が一新され、これまで理事長を勤められていた前川正雄氏が塾長（理事）に、副理事長を勤められていた前川正氏が理事長に就任されました。また、新たに3名の理事が誕生しましたので、新任4氏の挨拶を掲載いたします。

<前川 正 理事長>

和敬塾に勤務を開始した年に入塾した長男が今年の春に卒塾し無事社会人になりました。

和敬塾に入塾した塾生が、4年間の共同生活を通して、他人と折り合うことの厳しさと楽しさを知り、自分の人間の幅を広げながら、生涯の友人を作っていくプロセスを改めて実感することが出来たような気がしております。今後は、和敬塾の良い意味での特殊性を、世間に広く発信し、21世紀を牽引できる人材育成を進化させていきたいと考えております。

今後とも、ご指導の程、何卒宜しくお願ひ申し上げます。

<嘉藤 祐樹 理事>

平成3年10月、体育祭本祭の翌日が入職日でした。塾友の皆さんならば、その日の寮の玄関前を懐かしく思い出されることと思います。我ながら時の流れの速さと和敬塾に勤めている月日の長さに驚かされます。主に塾事務所で仕事をしておりましたが、それでも多くの寮生の皆さんと出会い、色々な経験をさせてもらいました。今まで、無為に時を過ごしたのではなく、それが有為であったものとするため、また、和敬塾の発展のため、努力したいと思います。宜しくお願ひ致します。

<佐々木良夫 理事>

和敬塾に勤務しておよそ25年になります。その間、少子高齢化や進学の地元志向など塾を取り巻く環境も大きく変わりました。また、塾生の気質もだいぶ変わった部分もありますが、「共同生活を通した人間形成」を軸に、変えるべきところは変え、守るべきところは守るという姿勢で、高校・大学・地域社会・ご父母・塾友の皆様など、多層的に和敬塾のあり方を考えながら仕事に向き合っていきたいと思います。どうぞよろしくお願ひいたします。

<三嶋 直純 理事>

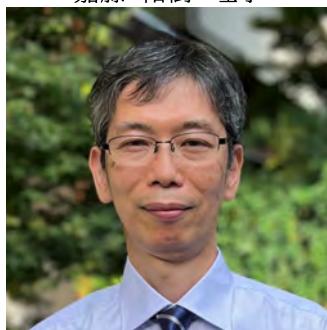
2009年2月より13年間、和敬塾に勤務しております。その間、副寮長、塾事務所を経験いたしました。そこで感じた様々な体験を生かして、これから塾のあり方について「共同生活を通した人間形成」を軸に皆さんと一緒に考え「塾の質的向上」に寄与する活動をしていきたいと思います。よろしくお願ひいたします。大切にしている言葉は「諦めない心」です。物事に対して粘り強く取り組んでいくつもりです。



前川 正 理事長



嘉藤 祐樹 理事



佐々木良夫 理事



三嶋 直純 理事

理事長交代式が小講堂で開催されました！

6月27日（月）に開催されました評議員会で、新理事長、塾長の就任、並びに3名の新任理事の就任が承認されたのを受け、6月29日（火）に和敬塾学生ホール3階の小講堂で理事長交代式を開催し、塾職員・寮職員に対し、塾長、理事長、並びに新任理事の方々から新任の抱負が披瀝されました。

まず理事長の交代を象徴する塾旗の引継ぎが行われ、その塾旗の重みに、前川正理事長も決意を新たにしておられました。

最初に挨拶された前川正雄塾長からは、20世紀と21世紀の和敬塾の違いについて触れられ、20世紀の和敬塾は塾の中の「共同生活を通した人間形成」に特化し、これはこれで上手く行っていたが、塾の内部で培った世界を塾外に拡げて行くことが21世紀の和敬塾のあるべき姿であり、この過去を振り返り、将来を構想する協議を3名の新理事とここ数ヶ月行っていたことを吐露され、新理事の今後の活躍に期待を寄せられました。



塾旗の引継ぎ



三嶋理事・佐々木理事・嘉藤理事

前川正雄 塾長



前川正 理事長

前川塾長の挨拶の後、3人の新理事からは、それぞれの入職以来の思い出を語った後、今後の取組むべきテーマの紹介等を含めた挨拶がありました。



佐々木理事



嘉藤理事



三嶋理事

最後に前川正理事長が挨拶をされ、和敬塾の良い意味での特殊性を発信し、毎年100名の新入塾生の獲得を目標に、塾の理解者の拡大に尽力していきたいとの決意表明があり、理事長交代式が終了しました。



和敬塾メールマガジン第11号



2022年7月19日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第11号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

広尾学園小石川高校と和敬塾の連携教育フォーラムを開催！

高校1年生120名が参加、夏目漱石の人生や作品を通して人間形成を考える場となる！

和敬塾と包括連携協定を結んでいる広尾学園小石川高校との連携教育フォーラムが7/16（土）に和敬塾で開催され、高校1年生約120名と和敬塾生約20名が参加しました。

「夏目漱石の人生や作品を通して人間形成の在り方を考える」と題した講演を行って戴いた松永哲雄先生は、熊本県立八代高校や熊本高校等で長く教鞭をとり、現在は真和中学・高等学校（熊本市）の国語科教師を務めておられます。

松永先生は高校2年の時に図書館で漱石の草枕を手に取り、「智に働き角が立つ。情に掉させば流される。意地を通せば窮屈だ。兎角に人の世は住みにくい。」の冒頭の一説に衝撃を受け、漱石の作品から人生を学ぼうと決意し、進学先も理系学部から文系学部に変えたという経歴の持ち主。

大学は文学部日本文学専攻に所属し、漱石の作品を読みふけり、更に漱石だけに止まらず、現代日本文學全集（筑摩書房）の大半の作品を学生時代に読破したこと。

今回の講演では、「三四郎」「それから」「門」といった作品や欧州留学時やその後の苦労した漱石の人生経験等を紹介しながら、人生をいかに生きるかを考える機会となりました。

また、読書の他、日記を書くことの重要性を強調。その他、聖徳太子の教えから「素直で謙虚な姿勢が人を伸ばす」、先生自身の剣道修行の体験から陶冶（とうや）という言葉を紹介し「繰り返し訓練することの重要性」も強調されていました。

熱心にメモをする高校生も多く、講演後の質疑応答では、剣道部（現在、和敬塾の道場で練習中）に所属する女子高生から「陶冶と心技体の関係は？」との質問があり、「日記をスマフォに記録しているが直筆で書いた方が良いか？」という若者ならでは質問をする女子高生もありました。

午後の部では、塾生を対象にした懇談会があり、ここでも活発な意見交換が交わされました。



講演する
松永哲雄先生



スライドを使い漱石の生涯や作品を説明



女子高生からも活発な質問が！



午後の部：塾生との懇談会

<文責：佐藤一義（和敬塾専務理事）>

* メールマガジンに関するご意見や質問等は以下にお願い致します。

公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>



和敬塾メールマガジン第12号



2022年8月23日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第12号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

明日の BS 朝日（夜 10 時）で和敬塾本館が紹介されます！

暫く、メールマガジンの配信が滞っていて、申し訳ございません！

今回の話題は、明日夜 10 時から BS 朝日で放送される番組で、和敬塾本館が紹介されるというものです。

TV 局：BS 朝日

番組名：築 100 年の家を訪ねる旅

昭和初期を飾る華族の館～東京都文京区「和敬塾本館」

日 時：8 月 24 日（水）22：00～22：30

< 詳細は以下を参照願います。 >

https://www.bs-asahi.co.jp/100nen/lineup/prg_300/

この「築 100 年の家を訪ねる旅」は 20011 年 4 月から放送開始の人気番組（当初は日曜日に放送）で、今回は記念すべき 300 回目の放送となります。

また、番組の案内人を務める内田青蔵先生（神奈川大学建築学部・学部長）は今から 30 年程前に行われた和敬塾本館の復元工事の際に、検討委員会の検討委員をされたこの道の第一人者です。

なお、明日の放送は 18 時からの野球中継（楽天 VS ソフトバンク）が延長の場合は放送時間の変更があるとのことです。放送の変更については、最新の番組表をご確認いただければ幸いです。

< 文責：佐藤一義（和敬塾専務理事）>

* メールマガジンに関するご意見や質問等は以下にお願い致します。

公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>

* 資料請求や募集に関するお問い合わせは以下にお願い致します。

<https://www.wakei.org/admission/contact>

電話（03）3941-7446 担当：下深迫（しもふかさこ）



和敬塾メールマガジン第13号

2022年9月8日 和敬塾事務所



和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第13号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

「漢の夏祭り」が盛大に開催されました！

恒例の体育祭に代わる「漢の夏祭り」が9/2（金）～9/7（水）にかけて、和敬塾グラウンドや外部運動場等を利用し、盛大に開催されました。

例年、9月下旬に開催していた体育祭ですが、コロナ禍の影響で、一昨年は中止となり、昨年は感染状況が多少落ちついた12月初旬に3日間の予定でスポーツフェスティバルとして開催されました。

今年は何としても騎馬戦を含めたフルスペックでの開催を目指し、塾生と職員が6月半ばから何度も会議を持ち、その実現を目指していましたが、コロナ感染第7波の影響で、密になっての練習が不可欠の騎馬戦は難しいとの判断から、騎馬戦、柔道、相撲などの濃厚接触競技を除いたスポーツを中心としたミニ体育祭を「漢の夏祭り」と題して開催することとなりました。

9/2（金）のサッカーを皮切りに、五人六脚、綱引き、ドッジボール、碁石リレー、e-sports、バスケットボール、障害物競走、卓球、バレーボール、野球の11種目で開催されました。（リレーは雨の為、中止）

久しぶりの4寮交流行事でもあり、塾生は夏休みの最後のひと時を競技や応援にパワー全開で楽しんでいました。結果は、五人六脚、綱引き、碁石リレー、障害物競走、卓球、野球の6種目でトップだった東寮が総合優勝を果たしました。

また、各競技の順位や総合順位に対する景品として、ダイドードリンコ㈱様よりたくさんの商品を戴き、塾生も大喜び！毎年のことですが、ここに御礼申し上げます。

右の写真はサッカー、五人六脚、障害物競走の3競技を上から2枚ずつ紹介しています。

来年は是非、フルスペックでの体育祭を開催できればと思っています。



*メールマガジンに関するご意見や質問等は以下にお願い致します。

公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>

(文責：専務理事 佐藤一義)



和敬塾メールマガジン第14号



2022年9月12日 和敬塾事務所

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第14号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

9/14(水)のBS朝日(夜10時)で和敬塾本館が紹介されます!

今回は8/24(水)に放送された番組の続編です。

前回は出演者の3名<神奈川大学・内田青蔵教授(案内人)、八嶋智人さん 牧瀬里穂さん>が和敬塾正門から入り、学生寮の一部を紹介した後、中庭から見た和敬塾本館の外観の他、玄関・大ホール・応接間・客間・御喫煙室・御食堂といった1階の主な施設が紹介されました。

今回は前回紹介されなかった1階奥の御書斎の他、2階以上の各施設が紹介される模様ですので乞うご期待です!

なお前回はプロ野球中継が1時間延長となり、23時からの放送となりましたが、今回はその心配も無いようです。



TV局：BS朝日

番組名：百年名家・築100年の家を訪ねる旅

今に生きる侯爵の邸宅

～東京都文京区「和敬塾本館」続編～

日 時：9月14日(水) 22:00～22:30

<詳細は以下のとおり>

https://www.bs-asahi.co.jp/100nen/lineup/prg_303/

以下の写真は前回放送された内容の一部です。



<見逃し配信はTVerで！⇒ <https://www.bs-asahi.co.jp/video/>>

万が一一番組を見逃した場合には、放送終了後、TVerで期間限定(1週間程)ですが無料配信されます！

*メールマガジンに関するご意見や質問等は以下にお願い致します。

公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>



和敬塾メールマガジン第15号

2022年 9月 26日 和敬塾事務局

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第15号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますので、ご了承下さい。

“チャレンジ”している塾生をご紹介します！

今回ご紹介するのは北寮の久間木壱成（くまき いっせい）君（慶應義塾大学文学部4年生）です。

久間木君は既に志望のメジャーディベロッパーの一社に内々定していますが、来年卒業までの間、各都道府県出身の学生が自らの地元をPRすべく地元産品のセレクトショップの経営を通じ、フロンティアスピリットと郷土愛を持った“日本の未来をつくる人材の輩出”を目指す「アナザー・ジャパン」というプロジェクトで活動しています。

このプロジェクトは、三菱地所株式会社が大手町に大規模再開発中の新たなシンボル「TOKYO TORCH」に40坪のプラットフォームを提供し、享保元年創業で300年の歴史を誇る株式会社中川政七商店（なかがわまさしちょうてん）が小売業のノウハウを教育するものです。

47都道府県の地域産品のセレクトショップの経営・企画運営・店舗運営・プロモーション・接客販売の全てを18名の学生で自主運営する試みで、東京駅前を学生経営の舞台に据えて、“私たちがつくる、もうひとつの日本”をコンセプトとする、自ら考えて実践する斬新な教育モデルを開拓します。

久間木君はその第1期生として、約200名の応募の中から18名の一人に選抜されました。今年3月から準備がスタートし、既に今年8月2日から九州産品を展開する「アナザー・キュウシュウ」が開業し、その様子がTV番組「ガイアの夜明け」「ワールドビジネスサテライト」などで紹介されたばかりですが、久間木君は10月5日からの開業に向けて準備している北海道・東北産品を扱う「アナザー・ホッカイドウトウホク」の店舗運営に係わる全てを他の学生の支援も受けながら担います。

因みにその後は「アナザー・チュウブ」「アナザー・カントウ」「アナザー・キンキ」「アナザー・チュウゴクシコク」と2か月ごとに入れ替わり、6ブロックが終了する来年8月からまた毎年展開し、5年後に完成する「Torch Tower」に400坪の大規模店舗が開業され、全国から出身の学生が勢ぞろいして47都道府県のセレクト産品を一同に扱う常設ブースを展開する計画となっています。

久間木君は以前から地方創生にも関心を持っていたことから、就活中にも関わらずこのプロジェクト参加を第一優先にしていたのですが、結果として良い方向に展開しました。日頃から、学年の垣根なく一緒にになって色々なことを企画し、合意形成し、実践している和敬塾の体験と実践の場がコンセプトとも合致したことが、選抜に結び付く自然の流れになったのだと思います。

今後のプロジェクトの行く末が問われる第1期生ですが、無事に就活も6月に終了した後にコロナウイルスに感染し、一時、開業準備が滞ることがありましたが、有難いことに北寮出身というだけでOBの紹介を受けて出展企業を数社得るなど、多くの支援を受けながら10月の「アナザー・ホッカイドウトウホク」の開業に向けた準備を進めています。

そのような高みを目指す前向きな研鑽姿勢は、人間形成の礎であることを示す良い手本として今回紹介させて戴きました。チャレンジングな取り組みをしている塾生をこれからも紹介して参ります。

読者の皆様におかれましても、「アナザー・ジャパン」の店舗で良質な地域産品に触れて親しんでいただき学生を応援していただけましたら幸いです。

<北寮：新村寮長のコメント>

久間木君の入塾願書を読み返したところ、長所として「前向きで落ち着きがあり目標に向けて必要な行動を選択し行動できる」と記述していました。興味を抱いたら即刻実行する強い気持ちがこの度のプロジェクトの選抜に繋がったのかもしれません。都市開発に興味があり、その業界を目指して就職活動を始めていましたが、訪問先の三菱地所でこのプロジェクトを知り、マーケティング研究の経験を活かせるので応募したのだと思います。

彼は福島県・福島市出身で東北地区の特産品を扱う店舗の開店準備に追われています。特産品を選定する中で、北寮出身で総務省に入省しつい最近まで山形の出先機関に勤務していた先輩を介して管内の自治体の方々と会えていろいろな情報を得ることができたと喜んでいました。これは本人の行動力と卒塾生のネットワークの絆の強さが遺憾なく発揮された好例と受け止めています。

※NHK 総合テレビの首都圏ネットワークでお店の準備に奔走する久間木君の様子が放送される予定です。

放送日時：9月28日(水)18:00-19:00 (放送日は延期になる可能性がありますので、ご了承ください。)

また、首都圏ネットワークは時間帯により放送エリアが変わりますので、こちらもご了承ください。

- ・毎週月曜～金曜 午後6時00分～6時10分 (関東地方)
- ・毎週月曜～金曜 午後6時10分～6時30分 (東京・神奈川・千葉・埼玉・栃木・群馬)
- ・毎週月曜～金曜 午後6時30分以降 (東京・神奈川・千葉・埼玉)

(参考転載)

<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000143.000016002.html>

【アナザー・ジャパン 2期生募集集中です！】https://note.com/another_japan/n/n14fd96e53e9e



久間木壱成君

<https://www.nakagawa-masashichi.jp/company/>

日本の工芸を元気にする！を実現するために中川政七商店は4つの事業を軸に全国の産地と取り組みを行っています。

- ・製造小売事業
- ・教育事業
- ・コンサルティング事業
- ・地域活性事業



<文責：佐藤一義（和敬塾専務理事）>

*メールマガジンに関するご意見や質問等は以下にお願い致します。

公益財団法人 和敬塾事務局 <juku_jimukyoku@wakei.or.jp>



和敬塾メールマガジン第20号



2022年12月11日 和敬塾事務局

和敬塾のトピックスを配信する和敬塾メールマガジン第20号をお送り致します。
なお、発行は不定期となりますのでご了承下さい。

新南寮から乾文学16号が発刊されました！

「乾文學」は平成27年4月に当時の乾寮の寮生が中心となって創刊した文芸誌です。乾寮は平成21年春に西寮と北寮が新棟となった際に、旧北寮を改修して開設された寮です。歴史も浅く、新しい文化を構築しようと当時の乾寮生が創刊したのが「乾文學」です。

乾寮は平成31年に閉鎖、乾寮・南寮・巽寮の3寮が統合され新南寮となりましたが、乾文學の刊行は継続され、その後、乾寮生や新南寮生に限らず、他寮の寮生や塾友、職員も投稿する拡がりを見せ、創刊以来7年半を経て、今回16号が発刊されました。

初代編集長の那須優一さん(乾寮五期生)は創刊号に以下のように創刊の辞を書いています。
「乾寮という新しい寮が少しずつ歴史を積み上げつつある。乾寮にこれから住むであろう未だ見ぬ新入生のために、今住んでいる人間の、人生の痕跡を残したい。そんな思いで『乾文學』を創刊する。時代に逆行するような書名も、ひとえに和敬塾の長い歴史に恥じぬ雑誌にしたいという思いからである。(中略)一度しかない自分の人生を生きるために、一度きりの人生を生き抜いた先人や同じ時代を生きる同士の知を借りる。これが『文學』である。そうであるならば、『文學』とは一部の知識人によって生産され、一部の人間によって消費されるべきものではない。誰もが『文學する』べきなのだ。語られる価値のない人生などない。どんなに拙い言葉でもいい。僕達が一度しかない人生の中で、情熱を傾けて語ったことは必ず誰かの糧になる。(以降省略)」

何と気高き文章でしょうか！原点がしっかりとしているが故に、その流れも絶えることなく今に続き、今回の16号となりました。

今回、新編集長となった小高将次郎君(新南寮一期生・4年生)はその序文で書いています。

「(前文略)私が望む乾文學の理想の姿は和敬生が日常生活で思いついた隨筆や誌、小説や論考、昔から自分の中で練り上げてきた脚本など『筆者の実存』が刺さるほどに感じられる作品が載る文芸誌だ。作品の巧拙は問わない。文字の間から筆者が滲み出るようなものが載るものにしたい。(以降省略)」

乾文學は毎回テーマを掲げて発刊していますが、今回のテーマは「闘争」です。掲載内容の詳細は紹介できませんが、塾友の國學院大學教授、上野誠先生より『闘争と敗れし者』と題してご寄稿をいただいております。またバックナンバーはこちらからご覧ることができます。

<https://tmatsuwestern.wixsite.com/inuibungaku>

以下の写真は代表的な冊子の表紙です。



第4号(平成27年11月)

第16号(令和4年11月)

創刊号(平成27年4月)

第3号(平成27年9月)

<文責:佐藤一義(和敬塾専務理事)>